

第3学年 音楽科 学習指導案

熊本市立天明中学校

教諭 米田 衣里

1. 題材名 詩や曲の背景を理解して、歌唱表現を工夫して歌おう。
(歌唱教材：『花の街』 江間章子 作詞 團伊玖磨 作曲)

2. 題材の目標

- 「花の街」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関りについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識・技能)
- 「花の街」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考・判断・表現)
- 詩や曲の背景を理解し、そこに込められた思いを生かした歌唱表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 題材について

(1) 教材観

本題材は、詩や曲がつくられた背景を理解して、どのように表現したいか思いや意図をもち、曲にふさわしい表現を創意工夫しながら歌うことをねらいとしている。思いや意図を表現するためには、音楽を形づくっている要素がどのように詩や詩に込められた思いと結びついているかを考え、表現を工夫していくことが大切である。

教材曲「花の街」は、終戦直後につくられ、昭和22年に発表された楽曲である。1, 2番は明るく希望に満ちた歌詞であるが、3番は戦争によってさまざまな苦しみや悲しみを味わった人々の心が描かれている。荒廃した時代において、日本の人々に勇気と希望を与えられるようにと作られ、平和から生まれる美しい街を描くことで、平和への祈りを込めた作品である。また、フレーズ始まりの8分休符の効果や詩と旋律の流れが一体となった美しさ、詩に込められた思いと強弱記号の関りなど音楽表現を創意工夫するための手がかりが盛り込まれた楽曲で、作品に込められた思いを感じ取りながら思いや意図を持って表現するのに適していると考えられる。

(2) 生徒観

アンケート結果によると、本学年は音楽の授業が好きな生徒が多く、「歌うことが好きですか」という質問には、約8割の生徒が「好き」または「まあまあ好き」と回答している。

これまでの歌唱表現活動では、強弱記号や休符を手掛かりに、どのように表現を工夫すればよいかを考える活動を行っている。7割程度の生徒は、「強い」「弱い」などの強弱記号の意味を理解しているが、それらの記号を単にボリュームとして捉えている生徒が多い。その記号が歌詞とどのように関わっているのかを考えたり、どのような雰囲気を出すためにつけられているのかを考えたりしながら自己のイメージをふくらませ、表現を工夫しようとするまでには至っていない生徒が多い。

(3) 指導観

- 音楽と向き合い、イメージを広げ、主体的に表現していくためには、楽曲を自分ごととして捉える必要がある。しかし、教材「花の街」は終戦後につくられた平和への思いが込められた曲

のため、戦争を経験したことのない生徒にとってイメージしづらい教材である。そこで、2年時に修学旅行で行った広島平和記念公園や原爆資料館の写真を提示したり、そのときに感じた思いを想起させたりしながら当時の人々の思いに馳せることができるようにする。また、図書室から関連資料を借用して紹介したり、道徳の時間で「生命尊重」について学んだあとに授業を行ったりするなど教科横断的に取り組むことで、深い学びにつなげたい。

- フレーズの始まりの休符の効果について、休符がある場合とない場合を歌い比べ、比較させることで休符の効果を実感させる。
- 表現の工夫を考える際には、自分の思いや意図を考えることが難しい生徒もいるため、「なぜこの強弱記号なのか」「作者はどのような思いだったのだろうか」など具体的にイメージができるように声かけを行い、表現につなげていく。また、個人で考えた工夫点をグループ内で意見交流する際には、はロイロの共有ノートの楽譜に書き込むことで、全員で共有できるようにする。
- グループごとの発表の際には、創意工夫を書き込んだ楽譜をテレビに映し出すことで、全体で共有し、視覚的にわかりやすくする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性…同じ曲であっても、自分の感じたことと他者の感じたことには違いがあり、そこに込める思いやイメージも様々である。

有限性…今ある平和は当たり前なものではない。自分たちで平和な世界を創っていかねばならない。

責任性…我が国の四季や自然の美しさや日本語の美しさ、日本人の心を感じることができるのが日本歌曲である。日本の歌を歌い継いでいくことは、我が国の文化の尊重にもつながる。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーションを行う力

楽譜から作詞者や作曲者の思いを感じ取る、意見交流を通して自分の思いや意図を伝え、さらには歌唱表現することで自分の思いを伝える。

他者と協力する態度

グループで創意工夫を考える活動を通して、他者と協力しながら曲にふさわしい歌唱表現をつくりあげる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

我が国で長く歌い継がれてきた日本の歌は、次の世代に引き継いでいかなければならない。

人権・文化を尊重する

我が国の文化を尊重することは、世界の文化を知り、尊重することにもつながる。

・達成が期待されるSDGs

16 平和と公正をすべての人に

4. 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 「花の街」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関りについて理解している。 ② 創意工夫した表現で「花の街」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の	① 「花の街」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したことと感受したこととの関りについて考え、「花の街」にふさわしい歌唱表現としてど	① 「花の街」の詩や曲の背景を理解し、そこに込められた思いを生かした歌唱表現に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「わになって～、わになって～」は、輪が広がっていくようにクレシェンドにしたい。 <p>4 グループごとに練習する。</p>	<p>かなど具体的にイメージができるように声かけをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロの共有ノートを活用し、考えた工夫を班員全員で共有できるようにする。 ・自分たちの思いと歌唱を往還させながら練習させる。 	
3	<p>1 前時を振り返り、1、2番を歌う。</p> <p>2 3番の歌詞にどのような思いが込められているかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>3 3番の表現の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひとりさびしく～」は戦後の悲しみを表現できるように丁寧な mp で歌いたい。 <p>4 グループごとに発表する。</p> <p>5 全体で歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の工夫点を振り返ることができるように、拡大譜を準備しておく。 ・思いを表現できるように、歌う姿勢や息の強さ、口の形など技能面のポイントを提示し、表現の工夫につなげる。 ・自分たちの思いと歌唱を往還させながら練習させる。 ・創意工夫を記入した楽譜をテレビに映し、全体で共有する。 ・これまでの学習を活かしながら、曲のよさや美しさを味わいながら1～3番まで歌うよう促す。 	イ① ア②